

「憧れの姿を目指して」



梅崎 涼 (25 歳) 新規学卒
(宇和島市)

1 就農の動機・理由

柑橘農家の息子として生まれ育ち、小さな頃から父や祖父の農作業を手伝っている中で、だんだんとその農業に取り組む姿に憧れを抱くようになった。

高校生の頃には、将来は農業をやろうと決めており、農業大学卒業後、地元である宇和島市で就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成 29 年)		現在の経営 (令和 4 年)		将来の経営 (令和 7 年)	
労働力	男 1 人(本人)		男 1 人(本人) パート 4 人		男 1 人(本人) パート 4 人	
経営耕地	樹園地	53 a	樹園地	133 a	樹園地	133 a
経営内容	早生温州	14a	早生温州	85a	早生温州	85a
	不知火	30a	不知火	10a	不知火	10a
	河内晩柑	30a	河内晩柑	10a	河内晩柑	10a
	瓢柑	7a	瓢柑	7a	瓢柑	7a
	せとか	5a	せとか	5a	せとか	5a
	清見	5a	清見	5a	清見	5a
	文旦	2a	文旦	2a	文旦	2a
			紅まどんな	9a	紅まどんな	9a

○農業用施設

農業用倉庫 1 棟
マルドリ 9 a

○主要農業機械

1 t トラック 1 台
動力噴霧器 1 台
刈払機 1 台
運搬車 1 台
マルドリ 1 式

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県宇和島市

職歴 なし

就農研修歴

愛媛県立農業大学校

(H26. 4. 1~H29. 3. 31)

就農年月 平成 29 年 10 月

(2) 就農時の思い

「いつまでも両親に甘えていたくない」という思いから、両親の経営とは別に、独立して経営を始めた。

しかしその反面、就農当初は 1 人でうまく経営を続けられるか不安だったのを覚えている。現在では周囲の方に助けられながら経営を続けている。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

農業大学校で培った栽培技術を実践している。在学時の愛媛県果樹研究センターでの実習や、八幡浜の農家に泊まり込みで学んだ農作業の経験が生かされていると思う。

就農後は、JA や県の普及指導員によ

る研修に参加したり、宇和島市青年農業者協議会の仲間と相談し合うことでスキルアップを図っている。

(2) 資金の準備

農業次世代人材投資事業(準備型・経営開始型)を活用している。

(3) 農地・住宅の確保

農地は親の経営から一部継承している。住宅は実家に住んでいる。

(4) その他苦労したこと

農業大学校で栽培技術を学んできたものの、摘果や収穫など、樹一本ずつの樹相に合わせて栽培するのに慣れるまで苦労した。

また、農作業や地域行事など、当初自分が想像していたよりも農家は多忙であった。現在ではどんな農作業でもスピード感を持って取り組むようにしている。

5 農業経営の特徴

早生温州ではマルチ栽培、また、紅まどんなではマルドリ栽培による高品質栽培に取り組んでいる。

その他に早生温州を搾汁したジュースを販売したり、小学校へ生果を納入したりしている。

6 これからの夢

就農してから数年が経ち、栽培にはある程度慣れてきたため、今後は早生温州やせとかななどの精品率向上を図ろうと思っている。

7 成功したキーポイント

まだ就農から5年目と、成功と言うにはおこがましいが、親や協議会の仲間など、周囲のたくさんの方からアドバイス

を頂けたことで助かった。

また、農業用施設や機械を揃える際に、自己資金では厳しかったため、補助金の存在はありがたかった。

8 就農を目指す方へのアドバイス

分からないことがあれば、悩まずに周囲の頼れる方に相談しましょう。

就農当初は分からないことだらけで不安になりますが、それを経験してきたベテラン農家さんに聞くことできっと答えを教えてくれるはずです。そのためにも、普段から周囲の方と密にコミュニケーションを図ることが重要です。

○ 指導機関からのひとこと

梅崎さんはまじめで、日々栽培技術の向上に努めながら農業に取り組まれています。青年農業者協議会の活動や地域行事にも熱心に参加されており、将来地域を牽引する農業者となることを期待しています。

執筆機関

南予地方局農業振興課地域農業育成室
電話番号 0895-28-6117



早生温州の選別作業